

最近のニュースなどから

関東地方では今年、平年より3日ほど遅く6月11日頃に梅雨入りしました。平年ですとそろそろ梅雨明けなのですが、もう少し先になりそうです。雲に隠れて太陽のコロナ（光冠）をしばらく見ていませんが（あくまでたとえです。太陽が出ていても決して見ないでくださいね。目に危険です。）、光冠に似た突起のようなものをもつ新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真の方は、毎日のようにニュースで目にします。第2波が気がかりです。

曇りや雨の日が続いているので、あまり気付きませんが、日の出の時刻は夏至（6月21日）に比べて16分ほど遅く、日の入りは7分ほど早くなっています。季節は、少しずつ先へ進んでいます。一日一日を大切にしましょう。

前号で、「自分の課題と向き合ひましょう。見つめてほしいのは、今の状態と、これから踏み出すべき方向です。」と書かせていただきました。今後の人生をどう生きるかについては、過去は関係ありません。自分の生き方を決めるのは、今の自分しかいないのです。

ここで、ちょっとした問いです。次の短文の空欄に適する語句は何でしょうか？

Life is a (). (人生とは旅である)

journey が入ります。新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどによる報道等の活動をジャーナリズム (journalism) といいます。語感が似ていますね。検索してみると、どちらも一日を意味するフランス語の jour と関連しているようです。移動する日々はジャーニーになりますし、日々の記録はジャーナルになるのでしょうか。もちろん語源的にはラテン語ということになるのですが、旅行・旅のジャーニーには、もともとは「一日の仕事」というような意味合いがあったようです。人の移動が必ずしも手軽に、快適に出来るわけではなかった時代には、日々の移動は、その時々直に直面する課題に向き合いながらの移動であったと想像できます。予定していた地点まで計画通りにたどりつけないということもしばしばあったでしょうし、そもそも次の目的地が設定されていないという場合も多かったと考えられます。何とか無事に、課題や困難、さまざまな“トラブル”に向き合いながら、その日の終わりにたどり着いたところがその日の到達点であり、次の出発点だったのでしよう。そう考えると、今というこの時に向き合いながら、一日一日を過ごしていくという点で、比喩的に人生は旅になぞらえられるのではないのでしょうか。 It's all about the journey, not the outcome.

次の問いです。

I will go (①) a trip tomorrow.
(私は明日、旅行に行きます。)

Have a nice (②)! (よい旅を!)

①には、on が、②には、trip が入ります。②の文の形としては命令形のように見えますが、ニュアンスには命令という感じはありません。よく交わされる会話・挨拶なのでしょう。文頭に Go が来た場合には、命令的に感じられる文例も多くなるようですが…。

別のニュースから。高校生の皆さんには、あまり縁がないと思うのですが、「帯状疱疹（たいじょうほうしん）」という病気、聞いたことがありますか？ 痛みを伴う赤い発疹や水ぶくれなどが帯状にあらわれる病気です。原因は、水ぼうそう（水痘）と同じ「水痘・帯状疱疹ウイルス」なのだそう。子どもの頃にかかることが多い水ぼうそうです。帯状疱疹とは、水痘ウイルスの再感染のことで、子どもの頃にかかった水ぼうそうのウイルスが、何と神経の中に生き残っており（潜伏感染というそうです）、それが再び活性化して起こる病気なのです。私たちは、気付かないうちに水ぼうそうウイルスと共に生活しているのです。国立感染症研究所の調べでは、日本の成人の9割以上がこのウイルスに感染しているのだそうです。普段は、おとなしくしているウイルスが、宿主の身体が「このままここにいて大丈夫なのだろうか？」という状態になると、「そろそろ他の人へ移ろうかしら」と表面に現れ出てくるのかもしれませんが。一般的には、年齢を重ね、疲労やストレスなどがきっかけとなって発症するようです。

同じようなくみも他にもあるのではないかと、最近のニュースで知りました。東京慈恵会医科大学ウイルス学講座の近藤一博教授らの研究です。

乳幼児の頃にかかる「突発性発疹」の原因ウイルス（ヒトヘルペスウイルス（HHV）6）が体内に潜伏感染していて、体が疲れると、HHV6が唾液中に急増し、その一部が脳の中核の「嗅球（きゅうきゅう）」というところに到達し、再感染を起こしていたというもので、この再感染と嗅球で作られる「SITH（シス）1」というたんぱく質が、「うつ病」と関連しているのではないかと、いうのです。「うつ病」とウイルスに因果関係があるとしたら、今後の治療法の開発にも新たな道を開くことになるのでしょうか。

ウィズ・コロナという響きには、あまりよい心持がしませんが、私たちは、既に多くのウイルスと共にあるようですね。